

わが家の「三都物語」

武田公子 金沢大学教授

心の
エッセイ



私事で恐縮だが、わが家は一時期仙台・金沢・京都に分散して住んでいた。そのときに偶然知った「三都物語」ともいべきご縁について記してみたい。

三年前に娘が仙台に移り住み、支倉町という所にアパートを借りた。これは伊達政宗が欧州に派遣した使節団（一六一三～二〇）を率いた支倉常長に因む町名である。アパートを決めてからそれでは元地主さんにご挨拶をというわけで仙台市立博物館にその展示を見に行った。以下

はそこで知った逸話である。

支倉常長はローマ法王に謁見した際、五枚のベルギー製のタペストリーを政宗にと託されたのだが、これが数奇な運命を辿ったのだ。

伊達家は幕府の禁教に触れるのを恐れてか、このタペストリーを会津藩に譲ったのだが、その後会津藩の窮乏のなかでこれらは売却され、散逸することとなった。そのうちの三枚は京都の商人を経て、分断されて祇園祭の山鉾などの飾りとされたというのだ。

京都に住んでいたとき祇園祭にはよく行ったものだが、特に鯉山は登竜門ということで巔頂にしており、娘の受験のお守りに粽（ちまき）を買ったりしていた。その町席で洋風のタペストリーがお披露目されていたなあと記憶はしていたが、まさかこうした所縁のものとは知らなかった。

そしてタペストリーの残り二枚だが、一枚は徳川家を経て東京芝増上寺に引き取られるも明治期に焼失してしまった。実は今年のお正月には家族で東京下町ツアーを楽しんだのだが、その折に増上寺にも詣でできた次第。

そしてあと一枚はといえば、加賀藩が買い取ったという（さすが百万石！）。

現在は前田育徳会が所蔵されているとのことだが、なにせ四百年前の品であるため、おいそれと見ることはできない。

かくして三つの都市がローマ法王のタペストリーで繋がった。まあ不思議な縁もあるものだ。